

ク ロ ー バ ー  
*Clover*

VOL.06

.....  
2013年夏号



株式会社 さち コーポレーション  
グループホーム さち



## 〈お盆に思う〉

今年は初盆を迎える我が家。義母が亡くなり早9ヶ月が経ちました。義母は昨年6月に自宅で転倒骨折し治療の為に入院を余儀なくされたのですが、持病が悪化し、ただの骨折だったはずが、最終的には看取りへと変化していきました。義母は病院で「はよ家に帰りたい！白い天井ばかり見ている何も面白くないわ！」と面会に行く度に訴え、仕舞いには「先生が明日家に帰っていいって言ってた！」と嘘までついても帰りたいことを訴えていました。一方、病院側は「急性期病棟でやるだけのことはやりました。今後は自宅に帰られるか、施設に入所するか決めてください」と家族にどちらかの選択を余儀なくされました。息子である主人は「何でもっと治療をしてくれないんだ！」「一日でも長く生きてほしいのに人の命を人間が勝手に決めていいのか！」「点滴してくれっ！やらないという事は死ぬということか」と激怒と困惑がありました。義母の思いと息子の思いの違いに、他の家族も戸惑うことがありました。

つい最近まで、人は病院で亡くなるのが当たり前のような流れがありましたが、ここ最近では、管につながれた状態で生かされている、いわゆる延命というのは本人にとって果たしてよいものなのだろうかと疑問視されるようになり、また国の財政負担の問題もあることから、人が最期を迎える場所が段々と病院から在宅へと戻りつつあります。最終的に私達家族は、義母の願いであった「自宅へ帰って最期を看取る」という選択肢を選びました。しかし、それを実現するには大きな課題がいくつもあります。一つは家族全員が働いているという課題です。自宅に帰っても面倒を定期的に家族でみることができない、これをどう対応したらよいか、何度も家族会議を開き、さらに病院・訪問介護事業所・看護師・往診の医師・ケアマネジャーと共にしっかり話し合い、計画が出来たところでようやく義母は倒れてから4ヶ月ぶりに自宅へ帰って来ました。昼間は訪問介護と訪問看護を頼み、家族がいない間の安否確認を、夜間については褥瘡予防の為にエアーマットや膀胱留置カテーテルなど、使える福祉用具や医療も活用することで、私達家族も介護への負担を出来るだけ少なくし睡眠時間も確保することができました。最初に感じていた不安も、多くの方々の協力もあり、何とかなる事が分かり安心できるようになりました。家族の中でも自然と役割分担ができ、家族の結束力が一段と強くなってきたと感じました。

自宅へ戻った義母は、入院する前まで過ごしていた自室へ戻るのではなく、ベッドなどを家族が普段よく集まる居間へ移し、そこで最期を過ごしてもらうことになりました。自

宅へ帰ってきた第一声が「あ～畳のにおいがして良いな。天井の柱目が見える！壁がある！」と。気兼ねなくテレビを観て、孫たちがはしゃぎ大声で笑う声やバタバタと走る足音を当たり前のように聴こえる生活音は、義母にとってようやく自宅へ戻ってくることができたことを実感できた音だったようです。嬉しそうな義母の顔を見て、私達もつづく普通の生活が一番ありがたく幸せだと感じました。

退院に唯一反対していた主人は、義母が退院したその日に家族の予想に反して慣れない手つきでトロミのついたお茶を作り、「これでいいのか？」と義母に確認しながらお茶を飲ませていました。次の日からは「もうお袋にお茶飲ませたぞ～」 「俺の方が上手に飲ませられる」と嬉しそうに話すこともありました。退院前のあの不安は何処かへ行ってしまったようで、いつの間にか親子の関わりを強く持っていました。これまでに散々苦労してきた母親への恩返しを垣間見た気がしました。

主人以外の家族にも、当然心配はありました。それは「最期が来たとき、私たちはどうしたらいいのだろう？」ということです。その心配に対し、往診の先生は「家族から急変の連絡が入った時、私はすぐには訪問しませんよ。程よい時間を見計らったり、遠回りしたりして、わざとゆっくり家へつくようにしますから。その間に、家族とのお別れの時間を大切に過ごしてくださいね」と仰いました。普通、急変があったらすぐに先生に駆けつけてもらい、息を引き取る瞬間を診てもらわなくては、と考えてしまいがちですが、先生にはご自分のクリニックもあるわけですし、色んな予定もあるはずです。それを無理して都合つけてもらうのも難しい話です。先生のこのお話を聞き、「焦らず、最期のそのひと時を大事に過ごしていればいいんだ」となんとなくほっとしました。

そしていよいよその日がやって来ました。義母が息を引き取る時、主治医も看護師もいない中ではありましたが、右手には義妹が、左手には主人が、足は私が持ち、本当に家族だけで最期を厳かに迎えることが出来ました。

今でも義母は私達家族と一緒にそばにいてくれている気がします。お疲れ様、そしてありがとう！今、真新しい盆提燈を飾り付けていますよ、お母さん。



ホーム長の義母は今でもさちのホームページのモデルとしていますよ～



このコーナーは、グループホームさちの活動をご報告いたします。

### 白無垢の花嫁さんが挨拶に来ました（6月）

訪問看護の職員が6月に結婚式を挙げました。式場に行く前にグループホームさちに立ち寄り、入居者の皆さんに結婚の報告をしました。入居者のみなさんから「お幸せに」と沢山の祝福の言葉を掛けてもらいとても幸せそうな様子でした。



### 下山へ巨大五平餅を食べに行きました（6月）

旅行雑誌で全国的に有名な「るるぶ」には、実は豊田市版というのがあるのをご存知ですか？その雑誌の中に豊田の名物「五平餅」の特集があり、見るたびに何時も気になる下山の巨大五平餅をみんなで食べてきました。顔より大きな五平餅ですが・・・皆さんペロリと全部食べていましたよ！



### 花火のシーズンです（7月）

夏と言えば、花火！豊田市も7月の終わりに大きな花火大会がありました。さちでも小さいながらも楽しい花火会を行っています。日中は暑さで外へなかなか出掛けられないので、夕食後の涼しい時間にこそとばかりに夕涼みをしながら花火を楽しんでいます♪



### 大正琴も弾けますよ（7月）

6月から月に1度、大正琴の先生がみえ演奏会と体験を開いてくださっています。大正琴はちょうど入居者のみなさんの若い頃に流行ったようで「私やったことあるよ～」「大正琴持ってるよ～」など、懐かしまれながら演奏を聴いたり、実際に触ってみたいされていました。

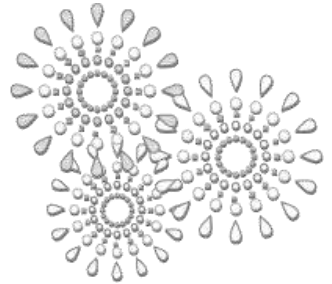


## さちのつぶやき

ここでは、グループホームさちで聞こえたつぶやきを少しずつご紹介します。

### ・「ゆっくりでいいから。慌てなくていいのよ〜」

7月28日は豊田市で花火大会がありました。さちからは音は聞こえるけれど花火は見えないので、みえる場所まで車で移動し、花火見物をしてきました。次々にあがる花火を見てみなさん大満足！が、全国的にも実は有名な豊田の花火大会は、私たちの帰りをとんでもない渋滞に巻き込みました。そんな中、職員の不安を心配してかFさんが気遣ってくださったお陰で、職員も、一緒に同乗していただきみなさんも、落ち着きを戻して楽しく戻ってこれることができました。



### ・「役割分担しましょうよ。あなたは洗いで私は濯ぎね」

グループホームさちが開所してから4年以上が経ち、開所時からご入居いただいている方も、だんだんと歳をとるにつれ身体も自由が利きにくくなってきました。それでも、Mさんはまだまだしっかり働いてくださっていたのですが・・・先日新しくご入居された方もあれこれと働いてくださる方。Mさんのお仕事が少ないと落ち込んでしまうかしら、と心配していたところ、何の心配もいりませんでした。ちゃんとお2人で相談して役割決めながら、仲良く今日もお台所を手伝ってくださいませ。



### ・「今日は原爆の日だから、お祈りしないといけないんだよ」

8月6日は人類で初めて原爆が広島県に落とされた日です。この日は朝から原爆に関する番組がテレビで流れていました。それを見てか、毎日熱心に神様にお祈りをされているSさんは、この時は神様ではなく、広島原爆で犠牲になられた方へのご冥福を一生懸命祈ってみえました。



## 孝母〈ころも〉見聞録 第6回

暑い日が続いていますが、みなさんお元気でしょうか。今回はまだまだ厳しい暑さが続く中、少しでも涼を感じていただけたらと、こんなイベントをご紹介します。

豊田市の山間にある小渡（おど）地区では、ただいま「夢掛け風鈴まつり」という催しを行っています。グループホームの皆さんも、街の暑さを少しでも逃れようと、毎年お邪魔しています。

この「夢掛け風鈴まつり」は、今から10年ほど前、小渡地区を流れる矢作川や支流に吹く川風を体感してもらおうと始められた、ちょっと変わった地域興しのイベントです。二筋の風鈴通りを中心にお店の軒先に風鈴飾りが吊るされ、通りを華やかに彩っています。また、このエリアにある増福寺と智教院の二寺院では、風鈴の短冊に願いを書いて祈願奉納ができ、絵馬のように境内に沢山の風鈴が飾られています。

都会の暑さや忙しさから離れ、見た目も音も雰囲気も涼しげなこの不思議な空間に、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



場 所	豊田市小渡町 一帯 ■風鈴奉納のできる増福寺は 豊田市小渡町寺ノ下 18-19
参考HP	■旭観光協会 <a href="http://www.kankou-asahi.toyota.aichi.jp/">http://www.kankou-asahi.toyota.aichi.jp/</a>

## <癒しの時間> lesson 5 りんごとレモンチーズクリームのパフェ

日差しが肌に痛いほど強く、暑さも最高潮！自宅の近所の林では一体何十、何百匹の蝉が鳴いているのだろうかというほどの蝉時雨が昼夜問わず響いています。道に咲いている花々も夏らしい鮮やかなカラーのものが目に眩しいですね。夏至を過ぎてお盆前の現在、夕方の空は日が沈むのが少しずつ早くなり、市場では巨峰、梨、りんごが出回るようになりました。暑さの中にも秋の気配をうっすらと感じます。旬はまだ少し先ですが、りんごを使った今の時期にも合う爽やかなデザートレシピをご紹介します。

### ☆りんごとレモンチーズクリームのパフェ☆

<材料 2人分>

【りんごのコンポート分】

りんご 1個、砂糖 大匙 1.5、レモン汁 小匙 1

【レモンチーズクリーム分】

生クリーム 60cc、クリームチーズ 15g、砂糖 小匙 2杯、

レモン汁 小匙 1.5、細かく刻んだレモンの皮 小匙 2杯

※レモンは約 1/3 個分です。



<作り方>

①りんごは皮をむき八つ切りにし、皮と一緒に小鍋に入れ軽く浸るほどのお水を注ぐ。

②コンポート分の砂糖、レモン汁を加えて中火にかけてアルミホイルでしっかり落し蓋をし、約 20 分かつくつと煮る。たまにりんごをひっくり返しあくがでたら除く。

③りんごが透き通ったら火を止めそのまま荒熱をとり、冷蔵庫で冷やす。

④その間にクリームを作る。クリームチーズは常温で柔らかくしておく。ボールに生クリームと砂糖を入れ、とろみがついて少しもったりするくらいに泡立てる。

⑤柔らかくなったクリームチーズにレモン汁と刻んだ皮を入れよく練り、④のボールに加え混ぜる。

⑥お皿にクリームとコンポートを交互に重ね、盛り付けたら完成☆

※使用するレモンはなるべくノンワックス、防カビ剤不使用のものがいいかと思います。

暑い夏も楽しみながら体調に気をつけ、元気にお過ごしください！

<by ゆうこ>

## ご協力ありがとうございます

5月11日～8月10日の間に、いろんな方々からさちにご協力いただきました。

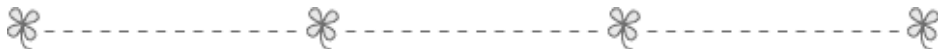
さわやか豊田のみなさん 佐橋澄雄さん 島袋大正琴教室のみなさん 豊田工業高等専門学校  
の学生さん オーネスト桃花林グループホームのみなさん

(順不同)

## ボランティアさん募集

グループホームさちではボランティアさんを募集しています。「ボランティアって  
と何か出来ないといけないのでしょ？」と思う方もみえるかも知れません。確かに色んな  
特技を活かしてボランティアをして下さる方もみえますが、ほんの空いた時間に、入居者  
の方とお話しをしていただいたり、お茶を飲みがてら一緒に植物の手入れをしたり、ご飯  
作りを手伝っていただいたり・・・普段の生活にほんの少しのお手伝いをしていただけ  
だけでも大歓迎です。お一人でもお友達同士でお越しいただいても構いません。一緒にこ  
れからの高齢者の生活を考えながら活動しませんか？

<担当：神谷>



## 編集雑記

うだるような暑さが続いていますね。この暑さの中、私は毎年恒例となっている地元の  
お祭り「とよたおいでん祭り」の踊り連として参加してきました。仲間と共に踊りや衣装  
を一から作り上げ、たった1日のお祭りの為だけに何ヶ月も前から練習を行うその流れは、  
この暑さをさらにその鳴き声で暑くさせるようなセミの気持ちがなんとなく分かる気がし  
ます。セミは約7年間も地中で生活し、地上に出ても1週間しか生きることができないと  
思えば、なんて事ない気がしてこないでしょうか。まだまだ暑さ厳しい日が続きますが、  
みなさんもお体にはお気をつけ下さい。(まり)

発行 行／株式会社さちコーポレーション

〒471-0067 愛知県豊田市栄生町3-58 ☎0565-35-0805

<http://www.e-sachi.co.jp/>

発行責任者／神谷 幸子

発行日／2013年8月10日(発行予定月 2月5月8月11月)